

# I 令和4年度事業報告

## 1 令和4年度事業実施概要

今年度は、ロシアによるウクライナ侵略や急激な円安の進行等の影響により、社会経済は物価高騰から家庭消費が落ち込む事態となりました。

畜産においても、穀物飼料・粗飼料の大半を海外原料に依存している経営は、中国の飼料穀物の輸入拡大等の影響もあり、飼料価格の高止まりをはじめ生産コストの上昇となり、経営収支が悪化する極めて厳しい経営環境となりました。

酪農においては、飲用向けが低調となり生乳の供給過剰を招き、肉用牛では、子牛価格の暴落に伴う優良肉用子牛生産推進緊急対策の実施、肉用牛肥育経営安定交付金の発動がありました。

一方、家畜衛生については、県内での発生はなかったものの、高病原性鳥インフルエンザが、全国では26県82事例の発生が確認されており、鶏卵生産の約1割の被害規模は社会経済にも大きく影響を及ぼしました。豚熱については、依然として野生イノシシの陽性が確認されており、ワクチン接種農場での発生もみられる状況であり、バイオセキュリティの強化が必須となっています。

また、近隣諸国では依然として口蹄疫、アフリカ豚熱、鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が発生しており、畜産農家の懸念がなかなかぬぐえない状況となっています。

当協会では、県予算による飼料価格高騰緊急対策事業の執行をはじめ、畜産クラスター機械導入事業や労働力の省力化を図る畜産ICT事業の推進、和牛繁殖経営安定対策、事務委託団体との連携による肉用子牛や牛マルキン制度の適切な執行、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病に対するバイオセキュリティの強化、また農場HACCP構築、乳製品の消費拡大に向けたイベント等の取り組みにより、畜産経営体の体質強化・経営安定を図るため、県および関係団体と連携しながら支援しました。

また、畜産女性を中心とした農業高校出前授業を開催し、畜産業に対する理解醸成を図るとともに、県産食肉の消費を推進するための冊子を作成し、3年振りの開催となる国産食肉フェアを実施しました。

一方、事務局を預かる活動については、生産者団体の抱える課題について生産者とともに切なる声を行政関係者に要望するとともに、消費者等に対しては、メディアを活用しながら畜産物の消費拡大が生産者の応援に繋がることを訴え、健全な畜産業界の維持発展に寄与すべく、一丸となって活動しました。

## 2 令和4年度の主な行事

(令和5年3月末日現在)

年	月	日	行事内容
4	4	25	三重県和牛繁殖協議会第1回役員会
		27	(一社) 三重県畜産協会 定期監査会
		15	(一社) 三重県畜産協会第1回理事会
		30	(一社) 三重県畜産協会 定時総会
	8	30	(一社) 三重県畜産協会第2回理事会
		22	令和4年度の行関係団体と三重県知事との意見交換会
		16	三重県畜産研究所第1回研究評価委員会
		31	(一社) 三重県畜産協会第3回理事会
5	11	9	地全協事業監査法人による業務監査
		23	伊賀産肉牛生産振興協議会 60周年記念式典
	2	13~17	会計検査院第4局農林水産検査第3課会計実地検査
		3	三重県畜産研究所第2回研究評価委員会
		23	(一社) 三重県畜産協会第4回理事会

## 3 会員の状況

(令和5年3月末日現在)

	期首	増加	減少	期末
正会員	37	0	1	36

## 4 職員に関する事項

(令和5年3月末日現在)

	期首	採用	退職	期末
正職員	5	1	0	6
嘱託職員	4	0	0	4
臨時職員	0	0	0	0
パート職員	3	0	0	3
合計	12	1	0	13